

# Rolling Stone

JAPAN

8

AUGUST 2016

定価 710円

vol.109

女 woman

コムアイ 水曜日のカンパネラ





# エリイ [Chim↑Pom] × コムアイ

コムアイとChim↑Pomのエリイ。それぞれこの国のポップカルチャーと現代アートの世界において、急先鋒に立つ異端児とされる2人の対談が新宿歌舞伎町にある放送局「TOCACOCAN」を舞台に実現した。その内容はとても濃密で、性差を超越した人間力に満ちている。

Photography by Shunya Arai  
Text by Shoichi Miyake  
Edit by Hiroshi Kagiya, Shun Sato



みたくないところがあると。そのときはすごく悔しかった。なんで自分が元気になることが人に悪い影響を与えるのかって。でも、私は自分を何も変えなかったんだよね。水曜日のカンパネラを始めて、ママがホントに体調が悪かったときも、看病しないとけないってわかってるんだけど、絶対にカンパネラをやろうと思った。カンパネラがちょうど軌道に乗り始めて、少しずつメディアが注目してくれるようになった時期で。私はどっちをやりたかったか判断できないから、いまお母さんを看病しなかったら、絶対にあとで後悔するけど、カンパ

ネラの活動がんばろうと思った。当時はそんなことを誰にも言わなかったから、ただ単に母親に興味ないと思われてた。カンパネラをやる前から、1人1人のエネルギーを悔しく感じていたし、カンパネラに誘われたときもこのユニットを使って自分は何かやろうと思ったから。いまもしお母さんの魂みたいなものが浮いてるとしたら、多少は理解してくれてると思うんだけど。でも、死ぬときはため息で感じだっただと思う。「ホントにこの子は何もしてくれなかったな」と。

E...お母さんはそういうことを実際に口に出して言ったの？

K...うん、冗談ばく言ってた。すごくキツかった。

E...それでやさぐれた気持ちになってグレたりはしなかった？

K...しなかった。もっと心に鎖を付けて、硬くして、柔らかい気持ちを閉じ込める感じ。だから、ママが亡くなってからのほうが気持ちはラクというか。半年くらい前から近いうちに亡くなるってみんなわかっちゃうじゃない？ その一方で、「いままでこういうことがあったね」とって思い出話とかもしたいんだけどみんな死ぬとは思いたくないから、そういう話をする時間が取れないんだよね。

E...でも、親孝行や思い出話ってし尽くすことは絶対ないから。

K...ありがとう。

E...エリイさんは創作においてお母さんとの関係性が影響することありますか？

E...子どものころからお母さんに「なんでもいから、ひとつ秀でたものを身につけて生きなさい」と言われたのが礎になって、一番心が震えるのは芸術だ。あとはすべて「君と私は無関係」みたいな感じですよ。

K...お母さん？

E...そう。だから、創作するときにお母さんのことをくだらない感情から考えて、その視点が入ってしまったら、本来を見失ってしまう。

K...うん、私も意識してない。

E...結婚されたからはどうですか？

E...結婚式は夜中の2時から飲み会をやつて、朝の10時から12時までで新宿を歩く

“一人一人分の伝達能力の低さがすごく悔しい” [コムアイ]

ナ「OMEで解散する」という作品を作りました。結婚してすごくプライベートなことなのになぜかパブリックなものになるじゃない？ それはなんでだろう？ と思ってた「結婚しました」という作品を作った。すべての創作は自分の身の回りのことから派生して作ってるから。結婚したからって守りに入るという発想はないですよ。

E...私は自分にも他人にも「ヒビッてんじゃねえよ」と常に思う。夫もうちのお母さんタイプで「もっとやっただほうがいいよ」みたいな感じでけっこう厳しいんですよ。

K...守りに入っていると、見抜かれちゃうの？

E...守りに入ると私のよさが出ないことを周りの人がわかっているから。

K...コムちゃんの周りの人もそうだろうし？

E...コムちゃんはそのまま生きていくのが一番いいと思う。何をしてもどうしても正解だと思えば、コムアイちゃんは。

K...そうかな？ 逆に不安になる(笑)。

E...コムちゃんは結婚についてはどう考えますか？

K...結婚はしたいし、相手の子どもというよりは、自分の子どもが見たい。何も考えなければ23、4(歳くらい)で産むのが自然な気がする。E...でも、結婚しなくても子どもだけ産んでもいいしね。

K...そうか。籍を入れないとは思ってないかも。残念ですが終了の時間が迫ってきました。

E...最後にお互いについてひと言ずついたしたら。

K...エリイさんはさっき言うてくれましたよね。最後に私がエリイさんに思うことは……甘えるところは見たくない(笑)。カッコよくいてほしい女っぷりも男っぷりもずっと高いままで。

E...いやあ、でも私は朝起きられないしね！

K...それは全然いい(笑)。



Ellie [Chim↑Pom]

エリイ 2005年、当時20代の6名でアーティスト集団、Chim↑Pomを結成。時代のリアルに反射神経で反応し、現代社会に全力で介入した強い社会的メッセージを持つ作品を、国内外問わず次々と発表。2014年、新宿の路上を舞台に結婚式をデモ形式で行うなど、人生の出来事をもとに自らの強烈なアイデアと姿勢から生み出す作品は唯一無二。

は寂しいし、間違ってると思ってた。だから、過去に正解があると思ってるのかもれない。未来に生まれるものがないものである気がしないという。だから、消えていく物を残したいと思うのかも。E: 未来に進んでいけばよりよくなるという大前提が刷り込まれていると、どんなそういう発想はなくなるよ。何かのインタビューで読んだんだけど、「自分の声があるにしろ」と意見が通らないって言ってたじゃん？ その考えがおもしろいなと思って。それは伝えたい考えがあるからでしょ？ K: 一人分の伝達能力の低さがすごく悔しくて。デモの何万分の一人の能力では自分は全然満足できない。自分ももっとすごい伝達能力を持つて然るべきみたいな笑。強欲なんです。そこは。E: 私は自分が有名になって何かを発したいという気持ちはあまりなくて。アート作品が100年後200年後、1000年後に残るといったことを考えて生きている。作品が時代に淘汰されて消えていってしまうことをどう乗り越えて行くか。じつはそれ以外のことはあまり興味がないんだよね。

創作物を劣化させないために

E: エリイさんが以前「アートとは人の心後の意識を革新する」と言っていたことが印象的でした。E: 何かの作品を観たときに今まで見えていた景色が全部変わる瞬間って作品？ K: たまにある。そういう作品と作家に対して「ありがとうとございます」って手を合わせなくなる。E: 自分の作品を作っている瞬間がある。K: たぶんエリイさんはこういう作品を作りたいというコンセプトに向かって作業を進めて、途中で矛盾が生じてるなと思ったら、そこでちゃんと軌道修正して作品を完成させてるイメージがあって。私もそういうふう創作したいんだけど、途中で自分がこうしたいという欲求とは違う方向性になって、それはそれでおもしろいって流されてしまうところがある。だから、水曜日のカンパネラの作品はどれもコンセプトがありすぎてそのために曲を作っていくという感じではないんですね。でも、いまは少しずつ音源もライヴも精度が上がって、自分のインスタレーションも素直に従って動けるようになってる実感がある。E: これだ！と閃いたアイデアがあって、それが閃いたときより創作する作品が劣化してはいけないと思うんだよね。劣化するのはいくらも。K: 言い訳だよね。MVの撮影も警察に注意される

「ビビってる人が多く、すこくつまらない世の中になってる」【エリイ】



からとか、許可が取れないからってあきらめるのは言い訳だと思つ。Chin+Penは許可取りや交渉をすこく丁寧にしてるじゃない？ E: たかが交渉一つで出来ることじゃなかったり、つまらない規制によって良い作品ができないのはすこくもったいないから。そのためにやれることは全部やる。K: (2012年にバルコミュニティアムで開催された「Chin+Pen展」でPARCOのビル、Cと、Pのネオンを取って、それを展示したよね。E: そう。最初にPARCOの建物内の中身を全部空っぽにして外に出す、というアイデアを出してそれは却下されたけど、Cと、Pのネオンを外して中に入れるという企画はすんなり通った。しかし、ビビってる人が多いんだよね。ちょっとすつ少すつ各々がビビって、それですこくつまらない世の中になってる。それはよくないよ。K: ホントにそう思う！ じゃあ誰がビビらずにやるのかっていったら、私やエリイさんみたいな人がやらなきゃいけないだろうなって。そこは女の子が無敵ぶらないといけないと思つ。

母親と結婚について

E: コムアイちゃんに訊きたいと思つていたことがあつて。話すのはつらいかもしれないけど、それは亡くなったお母さんのこと。震災後に亡くなったんだよね？ K: そう。震災の年の7月末に亡くなった。E: 震災のときにお母さんと一緒にいて「私のほうが強いと思つた」ってインタヴューで言ってたよね。K: 写真で振り返ると、中学生になったあたりからどんどん自分が強くなっているように見えるのね。目もほとんど釣り上がつていて。世の中を蔑んでいる目というか。当時、私が強くなるとお母さんの顔がどんどん弱くなっていった。自分がお母さんの養分を吸い取つてしまうような感じがした。お母さんのエネルギーは内に向いて、家族を愛して、みんなが幸せになるように努力を費やしていたと思うんだけど。E: お母さんってそれがすべてだよ。K: 私には弟がいる。ちよつと宗教の話になるんだけど、世界救世教という手かざして民間療法をする新興宗教があつてその洗礼みたいなものを小学生のときに受けさせられたのね。ママが喘息だったから、家族の手かざして治してみたいなことをやっただけ。その先生みたいな人と面談したときに「お姉ちゃん(コムアイ)はもうちよつと弟やお母さんのことを考えて弱くなつてくれないか」みたいなことを言われて。E: お姉ちゃんのエネルギーやパワーが強いから家族に影響を与えている。K: 私は器用ではないし、学校の成績もよくないんだけど、生命力が強いから、弟がそれに当てられちゃう